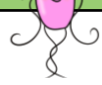


胃腸炎ってどんな病気？

胃腸炎とは？

口から入った細菌・ウイルスにより、嘔吐や下痢などの消化器症状が出現する感染症を胃腸炎と言います。原因となる細菌・ウイルスは様々ですが、代表的なものを3つ紹介します。

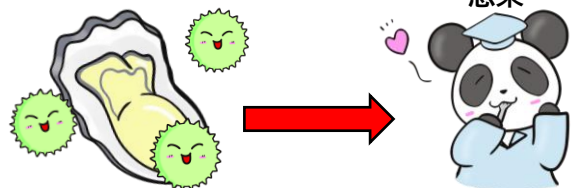
	ノロウイルス 	ロタウイルス 	腸管出血性大腸菌感染症（O-157など） 
流行時期	秋～冬	冬～春	通年
潜伏期間	平均24～48時間	平均5～6日	平均3～5日
症状	嘔吐・下痢	嘔吐・下痢（白色便）	腹痛・下痢・血便
治療	水分補給・補液などの脱水予防。	乳児は定期予防接種として経口生ワクチンの接種可。 水分補給・補液などの脱水予防。	水分補給・補液などの脱水予防。
ウイルス排泄期間	症状が軽快後も、便中に3週間以上ウイルスが排泄されることがある。		

症状がおさまっても、
ウイルスが排泄され続けていることを
意識して対応することが重要です！

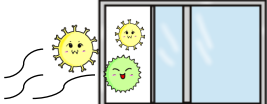


主な感染経路

胃腸炎の原因となるウイルスは、下記の経路で人に感染します。

食品から人へ	人・ものから人へ
ウイルスが付着した食品を食べることで感染。 感染者が調理した食品からの感染。 	ウイルスが付着した人・ものを触った手で、 口や目を触ることで感染。 

感染対策の基本

手洗い	30秒以上かけて「指先」「手のしわ」「手首」など細かいところまで洗う。 帰宅時、食事前、トイレ後は手洗い必須。 手を拭く際は、ペーパータオルを使用する（タオルの共用は避ける）。 
環境消毒	ノロウイルスはアルコール消毒が効かないため、次亜塩素酸ナトリウム溶液での消毒を実施。 次亜塩素酸ナトリウム溶液は毎日作成する。 
換気	定期的に窓やドアを開けて換気をし、ウイルスが部屋にとどまることを防ぐ。 

よくある質問をまとめました！

胃腸炎対応 Q&A



Q1:胃腸炎による嘔吐・下痢か判断がつかない場合、対応はどうしたらよいですか？

A1:流行時期に関わらず、嘔吐・下痢が出た時点で「胃腸炎」として対応をしていただくと安心です。
嘔吐・下痢の各対応でまず、すべきことは…

- ★嘔吐発生:職員1名は速やかに周囲にいる人を別室に移動する。職員もう1名は嘔吐処理に徹する。
- ★下痢発生:おむつ担当と食事担当(調乳・調理・食事介助担当)を完全に分ける。



Q2:ごはん中に嘔吐した際の対応を教えてください。

A2:ごはん中の嘔吐は、通常の嘔吐処理だけでなく、食器類の消毒も必要となります。
そのため、胃腸炎流行時期は、使い捨ての紙皿・紙コップなどを活用しましょう。
捨てられない食器は汚れを落とし、次亜塩素酸ナトリウム溶液につけ、調理担当に渡しましょう。

Q3:胃腸炎流行時のおむつ交換では何に気を付けたらよいですか？

A3:おむつ交換時は必ずエプロン・マスク・手袋を装着し、対応終了後はしっかりと手を洗います。
また、おむつ交換用のマットレスはその都度、次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒をしましょう。
おむつが入ったごみ袋は、清潔を保つエリア(教室・調理室など)を通らないように、ごみ箱に運びます。

Q4:スタッフの体調管理で気を付けることはありますか？

A4:胃腸炎の流行時期に、嘔吐・下痢症状のある人が施設内にいる場合は下記の対応が大事です。

調理室の職員 (栄養士・調理師など)	園児・利用者との接触を控える。 胃腸炎の流行に関わらず、日ごろからトイレは他のスタッフ・利用者と別にする。
園児・利用者に関わる職員 (保育士・介護士など)	おむつ・嘔吐処理担当と食事担当を明確に分ける。

Q5:トイレを使う園児の対応はどうしたらよいですか？

A5:園児・利用者・スタッフ全員、室内履きとトイレ用のスリッパを用意し、履き替えましょう。
便座やその周囲の壁、ドアノブなどは次亜塩素酸ナトリウム溶液で定期的に消毒をしましょう。

定期的に嘔吐・下痢処理の手技の確認を

下記のタイミングで定期的に手技を確認し、職員全員が実施できるようにしておくことも、感染対策で大切なポイントとなります。

- ・新入社員の入職時
- ・派遣社員、パートの入れ替え時
- ・胃腸炎流行前(夏～秋頃)

保健所からのお願い

台東区で作成した嘔吐処理の
動画もぜひご活用ください！

二次元コードから
ご覧ください♡



同じような症状が10名以上出た場合は、台東保健所までご連絡をお願いいたします。
また、10名以下でも感染症・感染対策に関するご質問などありましたらお気軽にお電話ください。